

## ありがとうの花束

夏休みは記録的な猛暑と表現されるほどとても暑い毎日でした。そんな中でも、みなさんは勉強や部活動、クラブ活動など文武両道で頑張ることができたのだと思います。部活動では、8月前半に開催された関東大会に、陸上部では1名、水泳部では5名が出場しました。特に水泳の男子400mメドレーリレーでは見事3位入賞を果たし、表彰台に上がることができました。県大会でも、ラグビー部の2年ぶり2度目の優勝を始め、多くの部が、県大会上位に進出するなど、富士見中学校の活躍ぶりは目を見張るものがありました。

本日の集会ではまず、全学年の廊下の掲示板に掲示されている「ありがとうの花束」を紹介します。スライドの左側から1年生、2年生、3年生の「ありがとうの花束」です。花の一つ一つには、こんな言葉が書かれています。「勉強を教えてくれてありがとう」「仲良くしてくれてありがとう」は、誰に対する「ありがとう」なのか書いてはありませんが、当事者はわかっているのではないかと思います。「学級委員さん・班長さん クラスをまとめてくれてありがとう」というのもありました。夏休み中、全ての学級の「ありがとうの花束」を読んで回りました。心がとてもあたたかくなりました。1年生のフロアには「今日のありがとう」というコーナーがあります。1年生の先生が、周りの人のために頑張っていたり思いやりのある行動をしたりしている生徒を見つけ、「〇〇さん ありがとう」と紙に書いて紹介しているのです。毎日のように更新しています。

ここで、今年度4月の始業式や入学式でお話したことを改めて確認します。共通してお話したのは「ありがとう」の語源についてです。語源の「有り難い」の反対語は「当たり前」だと言われています。身の回りの「当たり前」をよく見つめ直すと、実はそれが当たり前ではなく、有り難いことなのだと気づくことができます。感謝の気持ち、ありがとうで学校をいっぱいにしてくださいとお話をしました。先ほど紹介した「ありがとうの花束」をみるだけで、学校が「ありがとう」であふれていることがわかります。それは、夏休み中も感じることができました。県大会の準々決勝で惜しくも敗れてしまった野球部の最後のミーティングの場面をとまることができました。部員が整列し、代表であいさつをしたキャプテンは、送迎などで支えてくれた保護者の皆様への感謝の気持ちをしっかりと述べていました。試合が終わってすぐです。疲れや悔しさもあったでしょう。それでも、「ありがとうございます」という感謝の気持ちを伝えることができました。立派だと思います。保護者の皆様も、多くの感動や喜びを与えてくれた部員達に「ありがとう」の思いをもってくださっていたのだと感じています。野球部だけではなく。顧問の先生に聞いてみると、引退する3年生は、同じように、同級生や後輩、先生方への「ありがとう」を様々な形で残してくれたのだそうです。本当に「ありがとう」がいっぱいです。

ここまでは、周りの人に対する「ありがとう」のお話でした。ここからは、自分自身に対する「ありがとう」も忘れないで下さいねというお話です。30年ほど前のオリンピック・女子マラソンでメダルを獲得した有森裕子さんがゴール後に発した言葉が「自分で自分をほめたい」でした。当時、流行語大賞にも選ばれました。思うような結果が出ないときでも、努力した自分をほめてあげてください。今日だって「学校に来たくないな」と思った人もいたでしょう。よく登校しましたね。ほめてあげてください。アーティストのAdoさんの楽曲で、飲料水のCMソングにもなっている「わたしに花束」の歌詞の一部を紹介します。（スライドの歌詞を読む）。自分自身に対する「花束」を渡せるといいです。

夏休み明け、学校が再開します。もっともっとたくさんの「ありがとう」で学校をいっぱいにしていきましょう。